

学びと誇りが実感できるまち

～伝統文化に触れ ふるさと愛を！～

平成30年5月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人



薄月夜花くちなしの匂いけり (正岡子規)

先月23日、比和中学校が「平成30年度子供の読書活動優秀実践校」として、文部科学大臣表彰を受けました。おめでとうございます。昨年度の美古登小学校に続き庄原市の学校が2年連続の表彰です。

「庄原の子供は、いつも今読んでいる本が鞆に入っている」を合言葉に読書活動を推進している本市にとって、連続受賞は、大変評価された価値あるもので、子供たちとともに喜び合いたいと思います。各学校で読書活動を積極的に行っていることはもちろんですが、家庭や図書館、ボランティア活動による読書推進にも大いに弾みがつきます。今後もより一層読書活動に力を入れていきます。

さて、今回は、4年に1度開催されます、国指定重要無形民俗文化財「塩原の大山供養田植」について紹介します。

大山供養田植は、五穀豊穡と牛馬の安全供養を願う大山信仰と、太鼓や歌でにぎやかに囃（はや）し立てながら田植を行う「囃し田」が結びついたもので、中世以降の伝統的な形式が残されていることが評価され、平成14年に国の指定を受けました。次の5つの行事が行われます。

- 田植えおどり：さげ（太鼓打ち）と早乙女が隊形を組み、太鼓田植の姿を舞踏化した踊りを広場で披露します。
- 棚くぐり（供養行事）：神職と僧侶により牛が祈祷を受ける。現在では数少ない神仏混交の儀式です。
- しろかき：つの飾りをし、飾り鞍を載せた20頭ほどの牛がしろをかく姿は壮観です。歩き方には「鶯の谷わたり」など様々な形が伝えられています。
- 太鼓田植：さげが太鼓を打ちながら田植歌の上歌を歌い、早乙女は太鼓の拍子に合わせて苗を植えながら下歌を歌います。
- お札納め：大山神社に供養札を納めます。この行事は田植の翌日に行われます。

5月27日（日）、庄原市東城町小奴可の塩原地区で、この供養田植が公開されます。これまで、小奴可地区芸能保存会を中心として、地域の人たちが一丸となって先人のこころである伝統文化を未来へとつないできたことで、今日、私たちは貴重な現地公開を見学することができます。なお、この日は小奴可小学校の子供たちも一緒に伝統行事へ参加します。

是非とも普段触れる機会の少ない民俗芸能を現地で体感してみてください。